

## 平成 29 年度大阪府立寝屋川支援学校第 2 回「学校協議会」報告書

日 時	平成 29 年 12 月 8 日（金） 9：30 ～ 11：30			
出席者	協議会委員	職名等	学校側出席者	校務分掌等
	加藤 美朗	関西福祉科学大学准教授	太田 正義	校長
	松島 明日香	滋賀大学教育学部講師	岡本 智	准校長
	辻 直幸	寝屋川市立中央小学校長	吉村 昌己	事務部長
	奥野 勇人 (欠席)	(株) LIXIL ビバ SC 事業部 SC 運営管理部 マネジャー	石原 典忠	教頭
	岸本 泰幸	社会福祉法人・福祉型障害児入 所施設 月の輪学院 理事長	角尾 将司	首席
			宇賀 功二	首席
	那須 保子	寝屋川支援学校 P T A 会長	門田 悠	首席
			植屋 正美	首席
			西田 宜弘	小学部主事
林 尚美			中学部主事	
竹内 太平			進路指導主事	
おもな テーマ	① 平成 29 年度学校経営計画の進捗状況について ② センターの機能の現状について ③ 進路指導の状況について ④ 防災避難所宿泊体験活動について			
協議内容 の概略	(1) 平成 29 年度学校経営計画の進捗状況について、中期的目標の 3 本の柱及び本年度の取り組み等の進捗状況については太田校長より、高等部等については岡本准校長より説明があった。 (2) 本校のセンター的機能の現状について、地域支援、支援教育地域支援整備事業、北河内支援学校相談サポートセンター（KSC）等の今年度の取り組みの進捗状況について、角尾首席より報告があった。 (3) 進路指導の取り組みについて、平成 29 年度高等部卒業予定の生徒の進路先に関して、現時点での状況について進路指導主事の竹内教諭より報告があった。 (4) 協議会委員による協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加藤会長は、「専門性とは何なのか、具体的に挙げているが、専門性をどう共有するか、どう引き継いでいくかが大切である。なぜ、こういう指導をしているのかを説明できることが大事である。先生方の実践での達成感も専門性を測る大切な指標なのかなと思う。」と述べられた。</li> <li>・ 松島委員は、「先生方がアセスメント、子どもの事態把握から教材研究を行っているのは重要だと感じる。先生方の専門性の向上についての意識が高まっていくことは大事な視点であると思う。専門性の向上をどう測るかは難しい課題だが、先生方が意欲をもって公開講座等に参加していることも目安になると思う。」と述べられた。</li> <li>・ 辻委員は、「支援学級の子どもが増加し、通常学級にも配慮の必要な子供がいる。サポートセンターのような活動が重要になっている。研修に参加する側の体制づくりも必要と感じている。研修の機会が増えることが専門性のある教員を増やすことにつながる。学校での避難所宿泊体験については、画期的な取り組みだと思う。見通しを持つことが大切だと思うので具体的な活動を参考にしたい。」と述べられた。</li> <li>・ 岸本委員は、「KSC では様々なサポートが行われているが、自立サポートのような卒業生の支援は大切である。家庭支援の必要な家庭が増加していることもあり、先生方のサポートの視点を広げていけるような研修をやっていただきたい。北河内ブロックでの取り組みの教材データバンク「かず・ことば」は生きる力をつけるために必要な力であり、生きるという意味での自立へ進化させていっていただきたい。」と述べられた。</li> <li>・ 那須委員は、「若い先生方が多いので、心配であるという保護者の声はある。子どもの発達を見極めてしっかり導いて行ってくださることを保護者は希望している。アセスメントの実施や教材研究にしっかり取り組まれていることは安心できる。専門性は経験年数だけでは測れない難しい問題である。」と述べられた。</li> </ul> (5) 防災避難所宿泊体験活動について、角尾首席より報告があった。10 月 14 日（土）から 15 日（日）にかけて本校を会場に行われ、防災に関するワークショップ、防災教室、防災食体験、避難所を想定した体育館での宿泊体験等の活動を行った。			